

台風と共に去りぬ

第62回高松宮杯レポート

陳 大偉

フライトB～F

2005年9月17日、相次ぐ大型台風に見舞われ天候が安定しないなか、第62回高松宮杯の火ぶたが切って落とされた。今年は、2003年の111チームに次いで近年2番目に多い106チームがエントリー。6つのフライトに分かれ、フライトBからFまでは16チームずつが参戦した。フライトBからFまでの優勝チームは、次のとおり。

フライトB：「千福神連合」（多田、朝岡、勝部、勝部）

フライトC：「MATSUBARA」（丸山、赤間、松原、山後）

フライトD：「宗像久直」（宗像、石村、五来、長島、八角）

フライトE：「フェリーチェ」（勝山、桑原、一ノ瀬、吉田、酒井）

フライトF：「関根」（関根、佐々木、青木、兼田）

優勝への最短距離は5戦全勝。フライトB、C、Eの優勝チームは表街道から一直線に勝ち進み、それぞれベストコストパフォーマンスで優勝を果たした。各フライトの優勝チームの皆さん、そして惜しくも敗退した多数のチームの皆さんの健闘を讃えたい。

フライトAのフィールド

フライトAのチーム数はここ数年16から32の間で調整され、その数が32未満の場合、上位数チームは1回戦がBYEとなる。今年は申込締切後の追加エントリー等のせいか、1回戦の組み合わせ、とりわけ5番シード前後のチームにとっての初戦の有無は、初日前日になってようやく確定となった。このため地方からの参加者や、初日の日程調整・出番調整が必要なチームには迷惑な事態となった。これは今後の運営上の課題と言えよう。

フライトAは今年は26チーム。高松宮杯で

は、チームの合計シードポイントが上位26番以内のチームの中からフライトAにこだわらないチームがある場合、そのチーム数分だけフライトAを希望する下位チームの参加が認められる。今年のトップフライトは、最終的に上位シード21チームに階級超えて挑戦した5チームが加わってダブルKOのフィールドを結成し、日本で最も高名なチーム戦のひとつである高松宮杯を賭けた凄まじい戦いが5日間にわたり、繰り広げられることとなった。

表街道に吹き荒れる嵐

まずは表街道の主な結果から紹介しよう。上位6チームがBYEとなったせいか、1回戦は金星もなく“順当”なスタート。しかし、上位シードが揃って登場する2回戦から、いきなり波乱が起きはじめた。昨年準優勝の14番シード「Zeal」（大高、成田、伊藤、野田）が3番シード「Okay」（大野、山田彰、高橋、山田和、阿部、平田）に46：37で競り勝ち、一方、フライトAの新星と言える、21番シードの「鳥海安義」（鳥海、小阪、大西、伝、田村、家森）も5番シードの「チーム高山（新作）」（福田、加来、水田、高山、河野、吉田）との「新新対決」を59：30で制した。上位シードの転落で、早くも裏街道の陰しが増す。

上位シードの悪夢は3回戦でも続く。2回戦で16番シード「Kimura」（木村、小林、塚本、木村）に苦戦を強いられた（4IMP差）1番シードの「BB」（清水、中村、古田、陳）が、高松宮杯2連覇中の8番シード「HANA」（前田、林、花山、長坂）と早々に対戦することになった。

貴方は5♡のディクレアラ。サイドは鉄壁として、ハンドがA108653、ダミーはJ2という切り札をどう触るだろう？

「BB」の清水はA、ローと続け、惜しく

も左がK Q 9 4だったため、切り札で3敗して1ダウン、-50。対抗テーブル「HANA」の林は、安全な4♥のディクレアラ。5-0に備えて手からローをプレイすると、こちらでは切り札のルーザーが2個となって+450。

では、清水は林のラインを選ぶべきだったのだろうか？ ルーザーを2個に押さえない場合、実は清水のラインの方が微妙に優れている。したがって、今回はコントラクトの優劣で勝負が分かれたと言えよう。

さらに双方バルで、右手はパス。貴方のハンド。

♠ Q x
♥ A x
♦ A Q J 10
♣ 10 9 x x x

1♣とオープンしたら、次のような展開となる。

| 貴方(S) | | パートナー(N) | | |
|-------|----|----------|----|---|
| | | | | P |
| 1♣ | 2♠ | 3♥ | 3♠ | |
| P | P | X | P | |
| 出番 | | | | |

さてどうする？ 「BB」の陳はパスを選んだ。全体のハンドは次のとおり。

ディーラ：E ♠ x x x
Both VUL ♥ K J x x x
♦ x x
♣ A K Q x

| | | |
|----------------|---|-------------|
| ♠ A 10 x x x x | N | ♠ K J x |
| ♥ Q 10 9 x | W | ♥ x x |
| ♦ x x | E | ♦ K x x x x |
| ♣ x | S | ♣ J x x |

♠ Q x
♥ A x
♦ A Q J 10
♣ 10 9 x x x

ディフェンスミスでダウン1の+200。チームメイトは4♥をメイクされ-620。この2ボードで「BB」が20IMPを失い、結局

5点差で裏街道行きの切符を渡された。

一方、2番シード「TAJIMA」(田嶋、井野、今倉、平田、高野、寺本)の3回戦の相手は7番シードの「Queen's & Knight's」(山田厚、山田尤、市橋、両角)。前半43点のビハインドから、一時、大逆転に手が届くところまで追上げたものの、結局18点差で敗れ、これで上位シード3チームがいずれも表街道から姿を消すこととなった。

表街道4回戦で記録的な激戦を演じたのは、14番シード「Zeal」を退けた6番シード「海千山千」(ゲラー、荻原、伊藤、坂本、定村)と「TAJIMA」を倒した「Queen's & Knight's」。28ボードが終わって49:49の同点。その後、延々と電卓を叩き続ける両チームを待っていたトータルポイントの結果は、なんと8880:8860! チーム名からすると数的には圧勝しそうな「海千山千」も、最後はマイナートリック1個分で辛うじて表街道に踏み止まった。

電卓勝負(?)で疲れが残ったのか「海千山千」は、結局その後の表街道最終戦で「HANA」に76:40で行く手を阻まれた。一方、5連勝で高松宮杯3連覇に王手をかけた「HANA」は絶好調。

さて、その「HANA」と決勝で戦えるのは、一体どのチームになるのか? 裏街道からのカムバックチケットはたった1枚だけ。

険しい裏街道

では、裏街道へ。

表の「新新対決」で苦杯を喫した「チーム高山(新作)」を待っていたのは、15番シード「Spice」(坂本、林、梅津、内藤)とのいきなりの死闘。IMPは63:63のスコアで、実はこの試合が表・裏街道を通じて今大会の初のトータルポイント勝負。あわや「不作」に終わりそうになった新作チームだったが、+320ポイントでなんとか生き残った。しかし、このスリリングな勝利で息を吹き返した「チーム高山(新作)」は、その後、「Zeal」、「TAJIMA」、そして4番シード「Venice

Cup」(天野、島村、太田、瀬戸口、関澤、吉田)等の強敵を次々と危なげなくノックアウトし、裏街道5連勝で一気にベスト4進出を果たした。

一方、「HANA」に敗れ裏街道に入った「BB」は初戦「Okay」との接戦を制し、さらに17番シード「まっちゃん」(佐藤、早坂、松村、下保)と「Queen's & Knight's」を抑えて、同じくベスト4に進出した。

ではここで、「BB」と「Okay」の対戦からハンドをひとつ。味方だけNVでディーラー(E)の貴方は、次のハンドを持って1♦オープン。

♠ x x
♥ A Q x x
♦ Q 10 9 x x
♣ K x

ビッドは次のようになり、コントラクトは4♠。OLは？

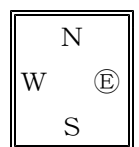
| 貴方(E) | | パートナー(W) | |
|-------|------|----------|---------|
| 1♦ | (P) | 1♥ | (1♠) |
| 2♥ | (2♠) | 3♥ | (4♠)/// |

「BB」の古田のリードは♥A！全体のハンドは以下のとおり。

ディーラー：E ♠ A K Q x x x
NS VUL ♥ x

♦ A x
♣ Q x x x

♠ J x ♠ x x
♥ J 10 x x ♥ A Q x x
♦ x x x x ♦ Q 10 9 x x
♣ A 10 x ♣ K x



♠ 10 9 x
♥ K x x x
♦ K J
♣ J 9 x x

♥Aをリードした古田が♣K、♣xと続け、4♠を1ダウンさせて+12IMP。

4位決定戦

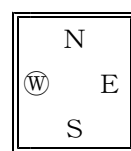
裏街道に残った3チームの中から、まず「チーム高山(新作)」と「BB」の4位決定戦(負けたら4位が確定)が行われた。

Board No. 4

ディーラー：W

Both VUL

♠ A K 8 ♠ 6 5
♥ A J 8 ♥ Q 7 3 2
♦ J 8 6 3 2 ♦ K 5 4
♣ K 9 ♣ A 8 7 2



| W | N | E | S |
|-----|---|--------|----|
| 1NT | P | 2NT* | 3♠ |
| P | P | 3NT/// | |

Eの2NTは、♣のサインオフかFGのセルフステイマンのハンド。3NTで4枚♥のセミバランスを示した。

OLは♠2。次へ進む前に、一度プレイのラインを考えてみていただきたい。難しいハンドに見えるが、情報を整理すると、

- ① バルの3♠ビッドから、Sには♦Aと♠Q J 10 x x x xがありそう。
- ② ♦以外のトリックは♠2勝、♥2勝か3勝、♣2勝。したがって、♦を2勝以上開発する以外に打つ手なし。
- ③ ♦のAQが両方Sにある場合、♦の開発が間に合わず、コントラクトの出来目はない。

となれば、♠をすぐに勝って、手から♦Jを流す(Qにカバーされても、Kを出さない)のは、結構冴えたプレイと考えられる。全体のハンドは、次のとおり。

Board No. 4 ♠ 2
 ディーラ : W ♥ 9 6 4
 Both VUL ♦ Q 10 7
 ♣ J 10 6 5 4 3
 ♠ A K 8
 ♥ A J 8
 ♦ J 8 6 3 2
 ♣ K 9

| | | |
|---|---|---|
| | N | |
| W | | E |
| | S | |

♠ 6 5
 ♥ Q 7 3 2
 ♦ K 5 4
 ♣ A 8 7 2
 ♠ Q J 10 9 7 4 3
 ♥ K 10 5
 ♦ A 9
 ♣ Q

結局この試合は、5連勝で波に乗る「チーム高山(新作)」が勢いの差を見せつけ、トップシードの「BB」を76:40で下し、裏街道の最終戦(3位を決定する準決勝)に進出した。

準決勝・決勝

最終日に行われた準決勝と決勝の2試合は、高松杯杯史上初めてのBBOでのライブ中継となった。オンラインブリッジを手掛けるBBOは、インターネットを通じて、世界各地で行われる主要トーナメントの様子もライブで会員に届けている企業。しかも、会費は無料だ。BBOはブリッジの普及と発展に素晴らしい貢献をしている会社と言えよう。また、このような中継によって世界的に注目されるのが日本のプレイヤーたちにも良い刺激となり、今後のレベルアップにつながる事が期待される。

では、「海千山千」と「チーム高山(新作)」の準決勝からのハンドをいくつか紹介する。

Board No. 8
 ディーラ : W
 Neither VUL

| | | |
|---|---|---|
| | N | |
| W | | E |
| | S | |

♠ Q 8 7 4
 ♥ A K 9 7 4 2
 ♦ A
 ♣ 8 2

♠ K J 10 3 2
 ♥ —
 ♦ J 10
 ♣ K Q 7 5 4 3

| | | | |
|----|-----|----|----|
| W | N | E | S |
| 1♥ | P | 1♠ | P |
| 3♠ | P | 4♣ | P |
| 4♦ | X | P | 5♦ |
| 5♥ | P | 5♠ | P |
| 6♠ | /// | | |

これは、「新作」チーム前半最大の失点ボード(裏は4♠+1で、11IMPの失点)。Eの4♣を聞いた後、Wが結局6♠まで一人旅をしたように見える。4♦Xの後のEのパスについてパートナーシップの理解に行き違いがあつたかもしれないが、Wは4♣を聞いたらすぐにRKCしても良さそうな手だったように思う。

Board No. 12 ♠ A 2
 ディーラ : W ♥ K J 7
 NS VUL ♦ 8 4
 ♣ A K 9 7 6 2

| | | |
|---|---|---|
| | N | |
| W | | E |
| | S | |

♠ K 9 7 6 4 3
 ♥ 10 9 5
 ♦ Q
 ♣ J 10 4

♠ Q J
 ♥ 8 6 4
 ♦ A J 5 3 2
 ♣ Q 8 3

♠ 10 8 5
 ♥ A Q 3 2
 ♦ K 10 9 7 6
 ♣ 5

オープンルーム :

| | | | |
|-----|-----|----|--------|
| ゲラー | 福田 | 荻原 | 加来 |
| 2♠ | 2NT | P | 3♣ |
| P | 3♦ | P | 3NT/// |

クローズドルーム

| | | | |
|----|-----|----|--------|
| 河野 | 定村 | 高山 | 伊藤 |
| 2♠ | 2NT | 3♠ | 3NT/// |

両方のNが2♠オープンに対して2NTを選んだが、私は3♣を薦めたい。ハンドのイメージとディクレアラーの位置等を考えると、2NTより3♣が優れている。実戦では両テーブルともNの3NTにたどり着き(勝負持

越)、同じく♠Qのリードを受けた(勝負持越)。考えられるプレイラインは以下の数とおり。

- ① ♠Aを1回ホールドし、Eの◇がAQx、AQJ、AQxxx、AJxxxのいずれかを狙って、◇を開発する。
- ② ♠Aを1回ホールドし、Wの♣がQxx、Jxx、10xx、xxxのいずれかを狙って、ダミーから♣を1回引いて開発する。
- ③ ♠Aをすぐに勝って、♣の3-3と♠のブロックを狙って、♣を開発する。

いずれもやる気を起こせないライン(コントラクトが良くないときにありがちな現象)だが、両方のNともパーセンテージのやや高いと思われるライン②を選んだ(勝負持越)。♠Aを1回ホールドして、♡でダミーに入り、♣を引く。すると、両方のWが正しく、J、10をスプリットする(依然、勝負持越)。ただし、ゲラーの♣10に対し、河野は♣Jだった。両方のNが予定どおり、WのアナーをAで取り、続けて♣Kをキャッシュ。そこで、高山は♣Qを捨て、荻原が♣Qを残したため、3回目の♣を勝ったサイドで取れる♠の枚数に差が出た(ついに勝負あり)。「新作」チームの+14IMP。

次のアグリーメントを採用することによって、このハンドのような問題は解決できる。ディクレアラーがプレイしたスーツにディフェンダーがスプリットをするときに；

☆ シーケンスを下から出すと、1枚以上の上のカードを示し、アンブロックは示唆しない；

☆ シーケンスを上から出すと、2枚以上続いている下のカードを示し、アンブロックを示唆する。

例えば、Jとスプリットすると、1枚以上のカードつまりQまたはKQを示唆するか、下のカード2枚、つまり10と9を示唆する。

これによって、スプリットカードを見たパートナーは、自分のハンドのカードと照らし合わせることにより、正しいプレイを選ぶことが容易になる。

実戦のハンドを使って検証してみる。♣の10で「JorQJ」または「9と8」を示唆すると、Eから見てWのJ10ダブルトンの可能性は排除できないため、Qのアンブロックはゲスとなる(落とすためには、アンブロックがベストだが)。しかし、もし♣Jで「QorKQ」または「10と9」を示唆すると、Qを持つEにとって、アンブロックが自動的となる。実際にはWのハンドに♣9はないが、ダミーの♣が1枚しかないため、Qのアンブロックを安全に示唆できた。

このハンドは「新作」チームがとったものの、結局、前半23IMPをリードした「海千山千」がそのまま逃げ切り、「HANA」が待つ決勝戦に進出した。

いよいよファイナル

では、その決勝戦からのハンドを紹介する。

Board No. 2 ♠ー
 ディーラー：E ♡9 6 3
 NS VUL ◇AK10 8 6 5
 ♣KQ 9 2

| | | |
|-------------|---------|---------|
| ♠10 7 4 3 2 | N | ♠AJ 5 |
| ♡AQ 10 5 2 | W (E) S | ♡KJ 8 7 |
| ◇Q | | ◇J 7 4 |
| ♣5 3 | | ♣J 10 4 |

♠KQ 9 8 6
 ♡4
 ◇9 3 2
 ♣A 8 7 6

オープンルーム：

| 伊藤 | 長坂 | 定村 | 花山 |
|----|----|----|-------|
| | | P | P |
| P | 1◇ | P | 1♠ |
| 2♡ | 3◇ | 3♡ | 5◇/// |

クローズドルーム

| | | | |
|----|-----|----|-------|
| 林 | ゲラー | 前田 | 荻原 |
| | | P | P |
| 2♥ | 3♦ | 3♥ | 3♠ |
| P | 4♣ | P | 5♣/// |

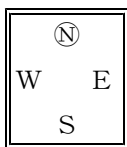
クローズドルームでは、3番手かつ有利なバル状況での林の2♥をケアしたせい、前田はバーを4レベルまで上げずにおとなしく3♥。マイナーのダブルフィットを発見した荻原は5♣を選んだ。+600はナイススコア。

オープンルーム3番手の伊藤は最初にパスを選び、2回目にリードを示唆する2♥。花山の5♦が好判断。4♥と積極的にスラムを示唆するには、切り札の内容が今ひとつ。

長坂の5♦に対し、定村は示唆された♥を選ばず、♦4をリード。伊藤のQをAで勝って、長坂は手から♥を出す。伊藤が♥10で勝って♣にシフトすると、長坂は正しく♣Kで勝つ。♥Aの位置が分からないため、長坂は♣の4-1でも出来る♠のラフィングフィネスに決め、♦Kを取る。結局♠A、♦Jと♥を負け1ダウン、-100。「海千山千」に12IMP。

定村がベストリードを選んだが、長坂の♦Kは不必要なプレイ。♥を切って、♠Kをダミーから引くと9割以上♠Aの位置が自明となるので、そこで出来るラインを決めれば良かったわけ。

| | |
|-------------|---------------|
| Board No. 5 | ♠K 6 3 2 |
| ディーラ : N | ♥K Q 10 3 |
| NS VUL | ♦A K 9 |
| | ♣4 2 |
| ♠5 | ♠Q 8 |
| ♥8 5 2 | ♥J 9 6 4 |
| ♦10 8 7 5 | ♦Q J 4 2 |
| ♣Q J 8 6 3 | ♣K 10 9 |
| | ♠A J 10 9 7 4 |
| | ♥A 7 |
| | ♦6 3 |
| | ♣A 7 5 |

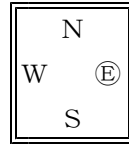


両テーブルとも、Nが1NTオープン。「HAHA」の花山はTEXAS経由で、4NTとRKC。長坂は賢く2Key+♠Qと答え、花山は喜んで6♠。

「海千山千」の荻原も同じくTEXASを選んだが、4♠をパスしたため、13トリック取っても「HANA」に12IMP。

読者の多くはマイルドスラムトライを選ぶかもしれないが、花山の行動は決してオーバービッドではない。

| | |
|--------------|------------|
| Board No. 10 | ♠A J 8 |
| ディーラ : E | ♥A K 6 |
| Both VUL | ♦Q J 8 5 |
| | ♣J 9 2 |
| ♠Q 10 7 5 | ♠K 9 6 4 |
| ♥5 4 | ♥Q 9 7 3 |
| ♦9 4 3 2 | ♦10 7 6 |
| ♣K 10 5 | ♣A 8 |
| | ♠3 2 |
| | ♥J 10 8 2 |
| | ♦A K |
| | ♣Q 7 6 4 3 |



両テーブルともNの4番手1NTオープン後、ステイマン経由で3NTとなった。リードも同じく♠4。

オープンルームの長坂は♠QをAで勝ち、正当な出来目である♥Q2枚以下を狙ってプレイし、ダウン2で-200。

クローズドのゲラーは♠Aを勝って、すぐ♦Aでダミーに入り、♥Jを流した。♠4のリードが正しければ♠KはEだが、♥Qオンサイドの3-3でも出来目はゲラーにしか分からない。♥Qを勝った前田が♠K、xと続け、♠Jを勝ったゲラーは取りあえず計画の進展に満足した。そして手の♦QJに別れを告げながら(再会の約束も願ったはず)、♥AKを取った。7トリックから始まったゲラーは依然7トリックのままだが、ここで♦Kで再びダミーに入り、♥10をキャッシュ。そして手の♣Jに向けて♣を引いて、計画の最終段階に移った。

♣ J を A で勝った前田は最後の♠を取って
から、長考に入った。最後 2 トリックの状況
は次のとおり。

| | | | |
|--------------|--------|--|------|
| Board No. 10 | ♠ — | | ♠ — |
| ディーラ : E | ♥ — | | ♥ — |
| Both VUL | ♦ Q J | | ♦ 10 |
| | ♣ — | | ♣ 8 |
| | ♠ — | | ♠ — |
| | ♥ — | | ♥ — |
| | ♦ — | | ♦ — |
| | ♣ K 10 | | ♣ 8 |
| | ♠ — | | ♠ — |
| | ♥ — | | ♥ — |
| | ♦ — | | ♦ — |
| | ♣ Q 7 | | ♣ 8 |

12 トリック目に前田が出したカードは♦の
10 ! ゲラーは手を見せ、ミッションインポ
シブルの成功に大満足。

ところで、前田は最後に本当にゲスに追い
込まれたのか？ 試合後、林との会話を聞く
と問題解決。

林 : 「最後に♣の K 10 がディクレアラードと
思って♦を打ったんか。でも、♦のストップ
パーを全部はずしてから、♣をエスタブリシュ
するのって、何プレイ言うねん？」

前田 : 「ほんまや。ワシも♦を打ってから、
随分変なプレイをしてきたなと思ったわ」

| | | | |
|--------------|-----------------|--|-------------|
| Board No. 15 | ♠ 9 7 6 5 4 3 | | ♠ K Q 10 |
| ディーラ : S | ♥ 8 3 | | ♥ — |
| NS VUL | ♦ 9 7 | | ♦ A K Q 3 2 |
| | ♣ 10 7 5 | | ♣ A K Q 8 6 |
| | ♠ A 8 2 | | ♠ K Q 10 |
| | ♥ K J 10 6 | | ♥ — |
| | ♦ 10 8 5 | | ♦ A K Q 3 2 |
| | ♣ 9 3 2 | | ♣ A K Q 8 6 |
| | ♠ J | | ♠ K Q 10 |
| | ♥ A Q 9 7 5 4 2 | | ♥ — |
| | ♦ J 6 4 | | ♦ A K Q 3 2 |
| | ♣ J 4 | | ♣ A K Q 8 6 |

オープンルーム :

| | | | |
|---------|----|-------|----|
| 伊藤 | 長坂 | 定村 | 花山 |
| | | | P |
| P | P | 2 ♣ | P |
| 2 ♦ * | P | 3 ♦ | P |
| 4 ♣ * | P | 5 ♥ * | P |
| 5 ♠ * | P | 7 ♣ | P |
| 7 ♦ /// | | | |

* アラートされたコール

定村の 5 ♥ は多分♣アグリーの Voidwood
だが、伊藤の 4 ♣ は本人に聞く以外見当がつか
ない。しかし、恐らくこれがグランドスラム
にたどり着ける唯一のビッドだったのかもしれ
ない。+1440 は WELL DONE !

ところで、このテーブルで、♥ スーツはど
こに消えたの？

クローズドルーム :

| | | | |
|---|-----|-------|-----|
| 林 | ゲラー | 前田 | 荻原 |
| | | | 2 ♥ |
| P | P | X /// | |

こちらのテーブルでは荻原が♥ スーツを発
見し、2 ♥ オープン。

バル状況を確認して、前田はダブル。

バル状況を確認して、林はパス。

「コントラクト」・・・ゲラーの心境は複雑。

2 ♥ x をプレイした荻原は、2 ダウンに抑
えることも出来たが、結局 3 ダウンで -800。

「海千山千」に 12 IMP。

「海千山千」は前半 6 点差で善戦したが後
半は失点を重ね、リベンジを果たすことがで
きなかった。一方、「HANA」は両ペアとも
後半いいブリッジを展開、最後は大差をつ
けて見事に優勝した。

高松宮杯 3 連覇は、近年、稀に見る素晴ら
しい記録である。来年の高松宮杯にはいつた
いどんなハプニングが待ち受けているのだら
うか。果たして「HANA」チームの 4 連覇は
なるのか。楽しみに見守りたいことが一杯あ
る。



2005年高松宮杯フライトA優勝
長坂 整・花山 武志・前田 尚志・林 伸之